

8月例会発表

郷土史研究に活用できる 地図サイトの紹介と実習

熊原 康博

0. 地図のない自治体史の問題

- ・地図がないので、どこの話かわからない。

1. 郷土史で地図を使うメリット

- ・地図に事象の位置をいれると、複数の事象の空間的な関係がわかり、関連性を導くことができる。

・郷土の歴史について、地図を使って人に伝えることができる。その地図を使って歩けば、現地で学ぶことができる。

- ・地形との関係を把握することができる。

2. 紹介するサイト

- ・地理院地図 ・今昔マップ
- ・地図・空中写真閲覧サービス
- ・国会図書館デジタルコレクション

3. 地理院地図

・利用例：三ツ城地域センターから鏡山城跡、三ツ城古墳を回るルート図と3Dモデルを作る。

① 下見周辺の地図の表示

地理院地図で下見周辺の地図を検索する。

② 傾斜量図を重ねて、地形がわかるようにする。

傾斜量図の上に地図を表示する。

③ 観察地点の位置にマークと地物名を表示する。

観察地点を表示するマークを選び名称を入力。



地物名を入力の方法と入力後の地図

④ 観察ルートを入れる。

観察地点と観察地点を結ぶルートに線を描く。



ルートに線を描いた地図

⑤ 地図を印刷する。

印刷する範囲が表示される。用紙サイズをA4横、縦、A3横、縦と変えて印刷する。

⑥ 段彩図をつくる

最低標高と最高標高間のカラーパターンを選び、透過率も調整してわかりやすく作る。

⑦ 3Dモデルを作る

3Dを作りたい範囲を選び、「3D範囲を選択」のOKボタンを押すと、別ウインドウで3Dモデルができる。



3Dモデル

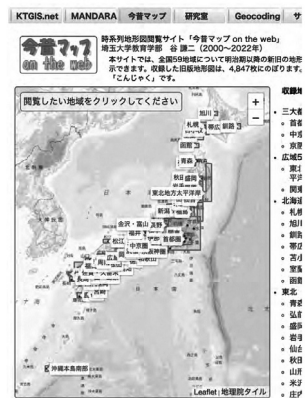
4. 今昔マップ

・全国地図を拡大して、広島をクリックすると、2画面（明治と現在）の広島市内の地図が表示される。

・東広島市内の南部も範囲に入っている。

・1画面を選択すると、古い地図のみとなる。

・「現在地表示」をクリックすると、現在の



10月例会のご案内

10月例会では研究発表は行われません。県史協大会の準備を行いますので、参加可能な方はぜひご協力ください。

日時 10月26日(土) 13:30～

場所 市役所北館1階市民協働センター

位置が表示される。

・スマホで今昔マップを持ったまま歩けば、軌跡が表示される。

・他の年代の地形図も揃っている（ただし、モノクロ）

5. 地図・空中写真閲覧サービス

国土地理院が発行してきたほぼすべての地形図を閲覧することが可能となった。

ただし、画像の撮影やキャプチャーは認められていない。新規ユーザー登録からログインIDをつくって、オンライン閲覧の申し込みをすれば、詳細な地形図を閲覧することが可能。

6. 国会図書館デジタルコレクション（地図ではないですが）

登録すると、「送信サービスで閲覧可能」の本を読むことができる。また、本の全文が検索可能なので、思いがけない本の中に、探しているものが取りあげられていることを発見できることもある。

令和6年「夏の臨地研修」

備中・備前に行きました

浮田 一民

梅雨明け宣言の翌日、7月22日芸陽バス本社を定刻の7時20分に備前・備中への「臨地研修」に勇躍として出発した。善男善女の集まりである赤木会長以下22名の祈りが功を奏した…いや、効き過ぎて熱中症警戒アラートが予報される猛暑の中への旅立ちであった。

今回の研修地は①陣屋の町「足守」（備中）②高松城水攻め跡（備中）③岡山城址（備前）の3箇所である。

西条ICから山陽自動車道を東進、総社ICからは田園の続く中を暫く走ると黒瓦に白なまこ壁が続く落ち着いた町並みへとバスは滑り込んだ。

足守藩は慶長6年（1601）に豊臣秀吉の正室北政所の実兄木下家定が2万5千石を領有して足守に陣屋を構えたことに始まる。一時期を除いて明治維新まで12代256年間にわたって連続と続いた。

陣屋とは城を持たない小禄の大名が拠点とした藩庁の呼び名であるが、足守陣屋も禄高が少ない分、町並みもこぢんまりとしていて落ち着いた風情の町が旅情をそそり、黄昏れた薄明かりの中を浴衣姿でそぞろに歩いてみたいと思うような場所である。

バスを降りると家老杉原家旧邸宅の重厚ななまこ壁の長屋門の前を通り、最後の藩主木下利

恭の養嗣子で明治大正の文壇をリードした白樺派の歌人木下利玄の生家前を抜けて近水（おみず）園へ向かう。近水園はこれもまた大名庭園としてはこぢんまりとした造りの池泉回遊式庭園で、鶴島・亀島の向こうに数寄屋造りの吟風閣が池畔に佇んでいる。池泉をめぐる疏水には近年では珍しくなったバイカモが清流の中で揺れていた。初夏の夕べには蛍の乱舞も見られるようである。足守に心を残して、備中高松城址へとバスは向かう。



家老杉原家旧邸宅

ここは秀吉の高松城水攻めと清水宗治の切腹で天下に勇名を馳せた名だたる名所で、高校の教科書に載っていたような記憶があるんだけど（思い違いかなあ）。

備中高松城址は北から東南にかけて遠くに山が連なり、西側は南東に流れる足守川が迫る三角地帯に広がる地域で、一面田んぼの中にポツンとある比高1mほどの小高い場所と言った雰囲気であった。二の丸址から本丸址の西側には蓮池が続いている。この蓮は高松城址発掘調査の際出土した約400年前の蓮の実から開花したと言うから驚きである。大賀蓮を連想させる。二の丸と本丸の間に大変珍しい花頭が双子になった蓮の花（双花蓮）が咲き、見た人は縁起が良いと話題になったそうであるが、今はすでに花は散って蓮の花托が茎の先に小さく仲良く並んでいるのが見えたので、思わず「宝くじがあたりますように！」と願ってし



備中高松城水攻めの図

まった（買ってないけど）。本丸址には清水宗治の首塚がある。これは秀吉本陣の石井山にあったものを明治になって改葬したもので、顎の骨と歯が数本残っていたそうである。

この時、清水宗治と共に自刃した末近信賀（せちかのぶよし、又はすえちかのぶよし）のことはほとんどの人が知らない。私も今回初めて知った次第である。末近信賀は備後国羽倉城主（現 三原市久井町羽倉）であり小早川隆景配下として清水宗治と共に高松城に籠城して共に自刃したのであるが、歴史は彼のことを無視して清水宗治一人を英雄にした。

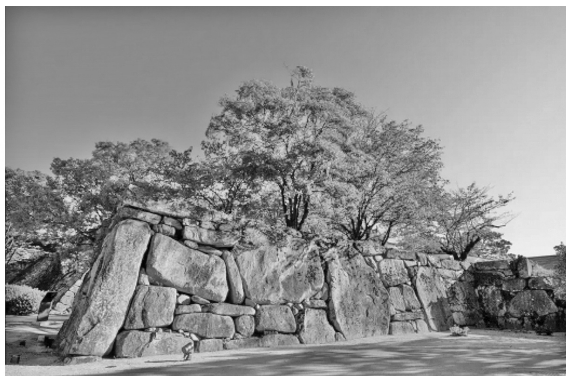
歴史を語る者は史実を客観的かつ公正に見ることが重要だと思っている。司馬遼太郎などの歴史小説は歴史を題材として脚色された創作小説であり史実ではない。

ともあれ、清水宗治は歴史のターニングポイントとなった備中高松城の水攻めで、まさしく辞世の句「浮世をば今こそ渡れ武士（もののふ）の名を高松の苔に残して」と詠んだとおりにその勇名を千歳に残したのである。

清水宗治の英雄譚に感動している間に気温はすでに30度を超えアラート領域に近づきつつある中をバスは最後の目的地である岡山城址へと向かった。岡山城はその外観から烏城（うじょう）と呼ばれ、室町時代最末期に備前の豪族宇喜多直家によって築城され、嗣子秀家、小早川秀秋を経て池田氏が入城し明治維新まで続いた名城であった。第二次世界大戦で米軍の空襲を受けて焼失してしまったが、昭和41年に鉄筋コンクリートで再建されたとのことであった。

バスが駐車場に着くと岡山市観光ボランティアの方4名のお出迎えを受けました。

気温はすでに30度を超えて37.1度。今年最高を記録して超危険水域です。ボランティアの方も私達と同年代と思われましたが、ひたすら私達の体調を気遣ってくださいました。目安橋から本丸下の段に入ると巨大な石垣が待ち受けていた。



本丸下の段の巨大な石垣

石垣に圧倒されながら六十一雁木門、廊下門を経ていざ天守閣へ。天守閣はもう最高！！

エアコンはバッチリ効いてエレベーター付き、ユックリした〜〜い！！

天守閣の展示監修はかの有名な磯田道史先生。磯田先生の名監修に時の経つのも忘れて鑑賞、ではなくエアコンに涼んでいると、どこからともなく「はよせーよ」と鬼の声。桃太郎の助けもなく再び地獄のような炎天下に。



後楽園から岡山城天守閣を遠望

天下三名園の後楽園も足元ふらふら気もそぞろ。そこへ桃太郎の助けの手。天は我々を見捨てなかった。茶店の「ももソフト」の看板に我や先、人や先。老いを忘れ、無心にソフトクリームにかぶりつく健気な姿。ソフトクリームを発明した人に金メダルをあげたい！！

ひと時の冷気に蘇生の思いを得て、小旅行も終焉です。バスは夕日輝く西へ、西へ。西条へとまっしぐら。

幹事の皆さん、ありがとうございました。同行の皆さん、お疲れさまでした。

創立50周年特別寄稿 第5弾 10年前の提案、その後

天野浩一郎

10年前の創立40周年記念式典で、当研究会がさらなる進化を遂げるため、会員の皆さんに次の提案を行いました。

①ホームページの立ち上げ

ホームページを通して、私たちの調査研究の成果や活動などの情報を一般の人達に提供し、当研究会のPRを進めます。当研究会に興味や関心をもった人には入会をお願いし、会員の増加を図ります。

②調査研究等の成果を管理するシステム構築

私たちはグループまたは個人で様々な活動を行っています。それらに関連するデータなどを体系的に管理するシステムを構築し、今後の調査研究活動やイベント運営などに活用します。

③市内の郷土史研究GRのネットワーク構築

月例会で他の郷土史研究会の会員が講師を務

める例はありますが、グループ間の交流は進んでいません。グループ間のネットワークを構築し、複数のグループが共同で調査やイベントなどを行い、東広島市の文化活動の底上げに寄与します。

*①ホームページは早い時期に松浦学さんが立ち上げ、運用を始めました。彼の退会に伴い、進藤真由美さんに新たにホームページを立ち上げていただき、50周年記念事業・郷土史展・史跡文化財を見て歩く会・グループ研究活動・郷土史ニュースなどが掲載されています。

今後も研究会活動を推進していくための情報発信は重要であり、特にホームページの**情報更新**は不可欠です。現在、進藤真由美さんがほぼ一人でホームページを管理され、最新情報の入手で大変な苦勞をされていると思います。

この負担を軽減するためには、当研究会の活動である郷土史展・史跡文化財を見て歩く会・臨地研修・グループ研究活動等については各々の関係者による最新情報の提供が不可欠です。

この最新情報の提供を確実にするため“**ホームページ推進係**”数人を選任し、各々の関係者と共に最新情報を進藤真由美さんに提供するシステムの構築を提案します。

これにより当研究会の多くの最新情報をホームページに掲載することが可能となり、ホームページを通して当研究会の目的である“多くの人に地域の歴史や文化などを紹介する”ことが進展します。

*②私たちの研究会活動を管理するシステムの構築は、残念ながら進んでいません。

毎月の例会発表・郷土史展・史跡文化財を見て歩く会・臨地研修・グループ研究活動などで調査した資料（写真を含む）を電子媒体として、当研究会所有の電子機器に保管し、会員なら誰でも何時でもそれらの資料を検索し活用する仕組みの構築を当時イメージしていました。

このシステムの必要性のPRが不足し、会員の皆さんに十分関心を持ってもらえませんでした。現在、郷土史展など研究会活動で作成した貴重な資料は各担当者のパソコンに保管され、陽の目を見ることは少ないと想定されます。

研究会の内部または外部によるサポートで、上記の資料をデータベース化しデータを有効に活用するシステムの構築を提案します。

平成9年（1997）に刊行された「東広島市の歴史事典」を利用して地域の文化や歴史を知る人も多いと思いますが、上記のシステムを活用してより**多くの情報**を入手することができ、今後の調査研究活動やイベント運営の推進が可能となります。

*③市内の郷土史研究グループの責任者などが

年1回程度意見交換などを行っていました。

各町の郷土史研究グループは各々の課題などを抱えており、複数のグループが一緒になって何かに取り組み機運もなく、当研究会からの働きかけもしていませんでした。

赤木会長のもとで他の郷土史研究グループと積極的な交流が始まったことは大変喜ばしいことで、“東広島の史跡文化財を見て歩く会”も従来の4町以外で実施することも検討されているようです。

今後、市内の郷土史研究グループが交流し、共同で歴史や文化などの調査研究を行い、東広島市の文化活動の底上げに寄与することを期待します。

《新規入会会員》

長田 悦子（八本松町）

グループ研究会ご案内	
第290回 古文書研究会	
と き	10月15日(火) 13:30～
と ころ	市役所北館 市民協働センター
テキスト	国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑧
第188回 石造物研究会	
と き	10月22日(火) 13:00～
と ころ	コジマヤ集合
内 容	第3回石造物探訪会現地調査
第187回 四日市町並研究会	
と き	10月7日(月) 10:00～
と ころ	西条本町歴史広場 小島屋土蔵
内 容	県史協大会酒蔵コース案内準備
昔の道探訪会（旧山城探訪会）	
10月はお休みします。	
原爆資料保存研究会	
と き	10月17日(木) 14:30～
と ころ	市役所北館 市民協働センター
10月の図書室開放	
と き	10月18日(金) 13:00～15:00
と ころ	高屋教育集会所
ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第602号	
令和6年（2024）10月5日発行 編集・発行 東広島郷土史研究会	
会 長	赤木達男 TEL(082)423-7235 E-mail:akata@akata@d4.dion.ne.jp
事務局長	國松宏史 TEL090-7979-6234 E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp
会報編集	間瀬 忍 TEL080-5756-2303 E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp